

ボランティア・ インタビュー

第5弾！



今回のセンターだよりは、薬物・アルコール等の依存から回復するための支援施設・新潟ダルク※1の施設長を務める田中五八生さん。ダルクは日本全国に九三施設あるそうですが、新潟にはひとつのみ。その新潟ダルクが南区の庄瀬にあるのです。

そして新潟ダルクのメンバーがなにやら地域のボランティアをしているらしい！

同じ精神保健福祉の分野で精神障がい児者を支援する、南区たすけあい・ぱるの理事長の秋庭保夫さんも興味深々。一緒にお話を伺ってきました！

あつという間に元の木阿弥

ボラセン 新潟ダルク以前はどこで何を？

田中 出身は名古屋です。暴力団の構成員というか、ヤクザをやっていました。先輩に勧められて覚せい剤を使い始め、使用を繰り返すうち30歳ころには薬物を手放すことができない状態になっていました。病院でダルクという依存症の回復支援施設があると教えてもらっていたんですが、なかなか連絡できなかった。でもどうしても薬が止まらなくて、名古屋にあるダルクに入所したいと電話したんです。そしたら、うちでは無理だからって断られて、平成11年5月に「茨城ダルク 今日一日ハウス」※2に入れてもらうことになりました。

入って3ヶ月で、代表の岩井さんの運転手をやらせてもらうようになったら、偉くなったような気分でもうぐーんって鼻が高くなっちゃった。翌年の3月に移った新設の茨城県・鹿島ダルクで、些細なことでもその代表と喧嘩して、やってられるか！って名古屋に戻ってヤクザに復帰してしまいました。

あんなに止められなかった薬が1年も止まってるんだから、もう大丈夫だと思ってました。でも帰って4日目の夜、自宅の片付けをしていた時に薬が出てきてしまったら、また薬使い出してんですよ。そこから3年半、もう薬使いっぱなし。5年前に茨城ダルクに助けてもらった時と同じ状況が出来上がっちゃって、薬は止まんないし、人はもうみんな離れてってひとりぼっちになるし。

再び茨城ダルクで

田中 で、結局、薬物所持で警察に捕まりました。裁判が終わって執行猶予がついたんで、すぐ親分に謝りに行きました。僕の親分は自分で生業仕事をやっていて、お金を持っている人だったんで、人を殴ったりとか恐喝したりとか、そんなことはしないし、自分にもさせない人だった。

どんな刑をもらったのか聞かれたので、実刑1年半の執行猶予3年だって言ったら、「3年は名古屋

※1は2P、※2は3P参照

この情報紙は新潟市からの補助金を受けて発行しています



左が秋庭保夫さん、右が田中五八生さん。庄瀬の新潟ダルクの前で



田中 五八生(たなか いわお) 新潟ダルク施設長

1969年名古屋市南区生まれ。自ら薬物依存に陥り、生きることも死ぬこともできなくなって、1999年、茨城県結城市にある茨城ダルクにたどり着く。1年8か月間、回復プログラムを実施し、地元で社会復帰するが、再び薬物依存に。再度ダルクでプログラムに取り組み、以後ダルクのスタッフとして各地で研修に参加。2016年、新潟ダルクに赴任、責任者となる。県と市が共同で行っている治療・回復プログラムSMARPP(スマープ)に回復者スタッフとして参加するほか、保護観察所や少年院で薬物乱用防止の啓発活動を精力的に行っている。

んです。それで僕は帰るふりして、やっぱりまた売人の所に買いに行ってるんです。

寂しいからとか、行くところがないんじゃないかと、一番バレないタイミングだと知っているから、拘留所を出たばかりで、親分のところに行つて話して帰った後だから、親分も安心して。一番安全な日なんです。裁判が終わって出てきた時、現金で30万円ぐらい持ってたと思うんですけど、そのお金がなくなるまでは薬、使ってるんです。お金がなくなった時、「さあどうしよう」となって、岩井さんにもう一度電話かけました。

滋賀県のびわこダルクに受け入れてもらって、そこで1年4ヶ月かなあ、結局利用者さんと喧嘩しちゃって、そこを追い出されることになって、茨城ダルクに戻ることに。

悪事がなかなか止まらない

田中 戻ってすぐ寮長をやられました。茨城ダルクって多い時だと35人とか40人くらい入る大きい施設なんです。その寮長という役割をもらって金庫の鍵を預かった。その金庫の中にお金がいっぱい入ってます。多い時だと70万ぐらい。入寮者が来た時に持ってるお小遣いやお金を預かってる分ですが、結局それを使い込んでしまってます。

こつちのお金をこつちへやって、こつちからお金引つ張ってきてって自転車操業してたら、ほんと疲れちゃって。もう岩井さんに正直に言う。こつちやってお金使っちゃったから、ここを出て働

いて返すって言うつて。そしたら岩井さん曰く「おおそつち、みんなそつちって出ていくんだつて。」「だれど誰も返さんのだつて。」「だからお前はここにいなさい」って言うてくれたんです。

秋庭 いやあだけど、親分さんとかそういう上の人からすごく可愛がられてますよね。何なんだろう？ やっぱり人間味っていうか、生まれ持った氣質っていうか。根底にはやっぱり魂とか人の優しさとかがあるからかなあ。

田中 どうなんですかねえ。岩井さん曰く、最後の最後にきちんと正直に話をしにに來れたから、

※1

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

新潟ダルク

ダルク(DARC)とは、ドラッグ(DRUG=薬物)、アディクション(ADDICTION=嗜癖、病的依存)、リハビリテーション(RIABILITATION=回復)、センター(CENTER=施設)を組み合わせた造語。1985年東京・荒川区で倉庫を借り、カトリック教会の全面的な援助を受け故近藤恒夫が創設した。2023年12月現在で日本国内に66団体93施設、韓国に3団体3施設。

新潟ダルクは2018年設立。代表 岩井喜代仁、施設長 田中五八生。入寮者の平均年齢は51歳前後、年齢層は18歳から60代後半くらいまで、施設利用費はほとんどの方が生活保護費から、刑務所出所者の方は法務省のプログラム費でまかなわれている。

新潟ダルクでは約1~3年を入寮期間と定め、3か月ごとに初期・中期・継続と分けて、ダルクミーティングとNAミーティングを毎日の活動の基本に据えて、薬物依存から回復するために提案された12のステップを実行している。

お前はすごいと。あの使ったお金はどれだけ時間がかかってもいいから、少しずついいから、返してくればそれでいい。で、お前いくら使ったんだ、ノートに書き出して持っていって言われただけで、また嘘ついて20万って言ってる。本当は40万円だった。それを言えたのは10年後でした。そしたら岩井さん、そんなこと知ってたよって、誰が金勘定をやっているとってんだって(笑)。

究極の選択は嫌な方を

田中 そういうわけで茨城ダルクに居づらくなつて、6か月間だけ、秋田ダルクに世話になりました。で、茨城に戻ったんですが、今度は女子施設に入寮している女性という仲になってしまいました。それが発覚して、女とダルクを出るか、ダルクに残るなら関係を切るために鳥取に行くか、選べと言われ、ダルクに残ることを選びました。本当はその女性と一緒にダルクを出たかったんだけど。

「究極の選択になったときは嫌な方を取れ」という教えが、僕たちが実行している回復プログラムの中にあるんです。この後行った岡山で、ダルクが嫌になっちゃってもう一生縁を切ろうと思った時に、秋田ダルクから提案されたのが、秋田ダルクに来てスタッフとして働くか、利用者として社会復帰できるまでさらにプログラムを実施するか。その時もやりたくないほうのスタッフを選びました。僕たちは今まで自分がやりたい方を取って生きていた、その結果が薬が止められ

なくなつた人生だったわけだから、人生をやり直すなら、それと逆のことをしないとけない、という教訓を守って。

秋田ダルクで10年、その後、鶴岡ダルクを経由して茨城ダルクに戻りました。ある時、新潟ダルクがちよつとおかしなことになってるから、一回見に行つて来いと言われて、当時、田上にあった新潟ダルクに来ました。

新潟ダルクに来てみたら

田中 新潟ダルクに来て責任者のやり方を見ていたんですが、融通が利かないっていうか臨機応変が苦手っていうか。まあ、ちよこちよこ口出ししながら様子を見ていたんです。

その責任者は一ツ年下で同じ名古屋の出身で、僕が若いころ暴走族の親衛隊長やつてたことを知っていたからか、僕には何にも言えなかつたみたい。ある日、突然爆発して切れて僕に食つてかかつてきた。それでケガやら逮捕やら騒ぎになつてしまった。岩井さんがその子に、一回新潟ダルクを閉めて各地のダルクに研修に行つてこいって。それができないなら、辞めるしかないって、言われてその子は辞めることを選んだんです。

ダルクの日課

田中 ダルクは1日2回グループミーティングを行います。自分の過去、薬を使っていた時のこと、どういったときにどういう感情で薬を使うのか、徹底的におさらいしてもらつて頭の中に植え付けます。午前中がダルク内で行うダルクミーティ

※3

NAとAAとダルク



A(アルコールクス)A(アノニマス)は、1935年、飲酒が止められないアメリカの証券マンと外科医が出会い、アルコール中毒のふたりが「どうやったら酒を止められるんだ」と話し合っていたらその間は飲酒していなかった、という出発点を持つ自助グループ。さまざまな職業・社会層に属している人たちがアルコールを飲まない生き方を続けるために、経験と力と希望を分かち合うAAミーティングに参加し、回復のための12ステップを実行している。アノニマス=無名とは、公共メディア等での無名性がすべての参加者に保障されていることを表している。

日本では当初AAで受け入れられていた回復中の薬物依存者によって、1981年初めてのN(ナルコティクス=薬物)A(アノニマス)ミーティングが始められ、アルコール依存者とは異なった治療共同体での治療の必要性が認識されるようになり、1985年東京・荒川区にダルクホームが開設された。

※2

茨城ダルク今日一日ハウス

岩井喜代仁(いわい きよひろ)



1947年京都府生まれ。薬物依存者のための民間の社会復帰施設・茨城ダルク 今日一日ハウス代表、日本ダルク理事長、女性シェルター代表。元やぐざ組長。23歳から17年間覚醒剤を使い、麻薬の密売人をするが、自身が薬物依存症となり、45歳の時、ダルクと出合う。以来、救う側へと生まれ変わり、薬物依存に苦しむ子供たちを預かり、共に生きて回復を目指す。施設長としての責務を果たすかたわら、小学校から高校、大学で講演を行ない、薬物の怖さを訴え続けている。

今日一日ハウスとは、きょう一日、薬を使わない、という意味がこもっている。2010年茨城県福祉部長賞受賞 2012年茨城県知事賞受賞

※5 社会福祉法人 浦河べてるの家

1984年に設立された北海道浦河町にある精神障がいなどをかかえた当事者の地域活動拠点。「べてる」は、そこで暮らす当事者達にとっては、生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同体という3つの性格を有しており、100名以上のメンバーが地域で暮らしている。

かつて浦河町の精神障がい回復者の仲間が、長い入院生活を終え退院した佐々木実さん（浦河べてるの家現理事長）の退院祝いを浦河町内の焼肉屋で行ったときに、「これから自分達はこの町で一体どうやって生きていったらいいのだろう」と語り合ったことから活動が始まった。

ング、夜は市内や県内で開催されている自助グループのNAミーティング※3に出かけて行きます。たとえば水曜日は高田のカトリック教会や川岸町の更生保護施設の川岸寮、木曜日は加茂の教会とか。

ミーティング以外の時間は、掃除や洗濯、食事の準備などの各自が分担している仕事や、軽運動、ボランティア活動、畑仕事など薬を使わない楽しさを知るための活動をしています。グループリーディングが重要です。

秋庭 精神障がいも一緒です。三度の飯よりミーティングと言われています。自分を第三者として見つめる、当事者研究っていうんだけど。周りの第三者がその人を決めつけるのじゃなくて、本人に自分の今の状態を話してもらう。幻聴が聞こえるとか、元気がないとか、親にもお医者さんにも言わないことを、なんの資格もない私たちボランティアに素直に話してくれる。素人にだから話せるのかもしれない。定期的なミーティングは

しないけど、ばるのにわ※4に來た時の顔を見て、必要かなと思ったら話しかけたり。

田中 素晴らしい。

秋庭 北海道のべてるの家※5がやっていたやり方なんだけど、それが一番いい方法だと思ってやっています。ほかにも大きな精神保健福祉フェスタで、聴衆を前に自分の状態を発表してもらったりと、いろいろなところで当事者研究が広がっています。自分って誰かって。

田中 うんうん、自分を知るんですね。

秋庭 そう。人に聞いてもらって話せることっていっぱいある。話してる中で自分も気づくし、周りの人も「そういう考えだったんだ」って分かるし。話すことはすごく重要だと思う。精神の病氣は、社会に出て就職してその中でストレスを感じて心身を病んでしまう人達がたくさんいる。人は人に壊される。でも救うのも人だと思ふんですよ。だから『人薬（ひとぐすり）』と言う。

※4 NPO法人 南区たすけあい・ぱる

2002年から白根市保健福祉課と白根市社協が共催した、精神障がい者のためのボランティア育成事業「心の健康づくり講座」の修了生が主要メンバーとなり設立した。当初、福祉作業所のボランティアとして活動を開始し、その後、任意団体南区たすけあい・あけぼのを設立、法人化は2016年。

活動を続ける中で、医者でもなく福祉系の職員でもない人たちと話がしたい、自分たちの話を聞いてほしい、そういう居場所があったら、という当事者の希望に応じて「喫茶店、という形で「こころの居場所ぱるのにわ」を作った。

就労継続支援A型などの公的資金に頼った運営にできなかったのは、職員数や就業時間など守らなければいけない枠ができて、対応できないケースが出てくること、なにより当事者は親にも当事者間でも言えないことが話したくて来るのに、その話の内容や状態を報告書という形で提出することはできない、当事者を報告書を書くための材料にたくないという信念ゆえである。



秋庭 保夫(あきにわ やすお) NPO法人南区たすけあい・ぱるの理事長

1959年千葉市生まれ。心の健康づくり講座を受講したことをきっかけに、精神保健福祉ボランティアとして、作業所の世話人となる。以後、当事者と家族会の交流事業や啓発事業、臨床心理学研修会の実施、精神保健福祉フェスタの企画運営などに携わる。「こころの居場所ぱるのにわ」が、旧白根商店街に立地していることから、地域の高齢者や認知症の方が集う居場所ともなっているため、居場所の新しい展開を模索中。

※7 令和5年10月開催された「収穫祭～地域とダルクの交流会」
更生保護女性会南支部が主催となり、庄瀬コミュニティ協議会など地域の方々や保護司、区健康福祉課、南区社協等が真っ青な空の下で集って楽しく交流した



ボランティアをしております♪

ボラセン 地域でボランティア活動をされている
そうです…

田中 はい。おもに草刈りと雪かきを。最初やりだしたきっかけが、三条の山奥に住んでいる支援者の方が、除雪機を買い替えるから古いやつ使っか、って声かけてくれて。結構大きい除雪機だったんで、どうしようかなと思ったんだけど、無いよりあった方がいいかといいただきました。最初はダルクの周りを雪かきしていただきましたけど、やり出したら結構面白い。で、庄瀬生活センターの駐車場をやつてあげようと思って、センターの方に言いに行ったら、「ここもやつてほしいけど、田中さ

ん、センターなんかより通学路やつてあげて」って言われて始めました。

通学路は業者さんが入ってるんですが、この辺りは夜中の1時とか2時ごろに来るんで、そのあと降った分が積もっちゃうんですね。雪かきは通学路や地域生活センターなど。草刈りは農村公園と隣の空き地、旧庄瀬中学校跡地などです。

更生保護女性会南支部の方たちに年末「のっぺ」を差し入れてもらったり、しなのが工房ままやの方たちに教えてもらいながら野菜※6を育てたりしています。その野菜でカレーを作つてふるまう収穫祭※7を更女が主催して、地域の方を誘つて皆さんに食べてもらったり。いろいろな機会を作つてくださるので、新潟ダルクは他所のダルクより地域と近しくさせてもらってるかも。庄瀬以外では支援を頂いていることもあって、カトリック新潟教会の草刈りを年間を通してしています。あと墓地ですね。寺尾、太夫浜、村松とか結構遠くまで行きます。

まだ依存症は治っていない

ボラセン ダルクの運営はどんな風に？

田中 スタッフは私ともう一人、それと研修中のスタッフが一人。全員依存症者です。経理は茨城ダルクの事務のおばちゃん、その方もアルコール依存症です。

ここに来る人は、お酒や薬が止めれないから来るのに、しばらく経つと、「あ、やっぱりもう出て行きます」って出て行く人が多いんですよ。

それでもいいんだと思う。

依存症っていう病気が再発して止まらなくなった時に、行ける場所があるっていうのが分かつてい

ば。助かるかどうかはその人次第だから。

僕が、そんなお酒飲んじや駄目、薬なんてやつちゃ駄目なんて言つてもやつちゃう人達ですから。誰の言うことも聞かないで、薬やお酒を使い続け人達だから。そんなこと言つても所詮無駄だし、なおかつ僕もそうだったから。

秋庭 贖罪と言うと変ですけど、田中さんのように行動を起こして、それを続けているっていうのはすごいですね。

田中 僕もそうやって助けてもらったから。僕が今でも確実に忘れないでいたいことがあって、それはダルクに助けてもらう前、2回死のうとしてるんです。けど2回とも死ねなかった。誰にも相手にされなくてさあ。薬はやめたいんだけど薬使っちゃうしさあ。

あの苦しさを感じる人が1人でもいなくなつてほしいという思いが根底にある。それなのに、いまだに使いたいなつて思う時があるんです。腹の立った時とかね、悲しい時とか、疲れた時とか、



ダルクの完全無農薬野菜！ 草しか見えないかもしれませんが、よく見るとジャガイモが育ってます。

※6

そんな時、薬あつたらなあ、なんてやつば頭に思い浮かぶんです。つてことはまだ依存症は治ってないつてことですよね。

大事な役割

田中 僕たちみたいな人間っていうのは、悪いことをしてきた分だけ罪悪感がものすごく大きいです。僕が初めてダルクに助けてもらつて薬が止まりだして、頭がまともに考えられるようになったとき、一番最初に考えたことは嫁さんだった人と子どものことです。

僕は18歳で結婚して子どもが3人いるんですが、一番上の子が今35歳かな。上の2人とは絶縁状態です、いまだに。けど、一番下の子には会えていて、孫にも定期的に会わせてもらえてます。最近、大麻で捕まる若い子が出てきてるんです。覚せい剤はダメだけど大麻は天然物だからいいんじゃないか、つて考えるみたいで。少年院の先生達が「大麻もダメでしょう」つて言つても、若い子たちは「なんで？」つてなるらしい。でも僕が行つて話すると、「あ、駄目なんだなあ」なんて言うらしいです。なんかすごく納得するつていうか。早い話、薬使うことによつて失うものがすごく大きいと。僕の場合、僕が薬使うことによつて、僕がヤクザやつたことによつて、親だつたり兄

弟だつたり、嫁さんだつた人とか子どもにすごく迷惑がかかつて、疎外されるわけじゃないですか。そういう話をした時に、やつぱり大麻も悪いんだなつて認識するらしいんです。

ボラセン 覚醒剤も大麻も失うものは大きいよと、田中さんが話すと伝わる。無二の役割ですね。

一番助かっているのは僕

田中 今ダルクで、薬やお酒飲んだらこうなつちゃうんだという人達の姿や、大変なことだらけだけど歯をくいしばつてお酒や薬を使わないでいる人達を見てるから、僕は薬を止められてるんだと思います。そう思うとダルクで働くことは、やつぱり一番理に適つてることだと思つ。

「この人格好いな。薬止まつていいな」つて憧れる人はみんなダルクの人だつたんですよ。その人たちは、本当に楽しそうに生きてんですよ。薬使つてないのに。僕は子どもの時からシンナーをやつていたから、薬のない楽しさつていうのを知らなかったですよ。何するにしても薬物を摂取してから行動してたんで。

だから僕から言わしてもらつと、僕がみんなを助けるためにダルクやつてんじゃないんです。僕が助かるためにやつてるつてこと。ふつと考えてみると、やつぱり一番助かつてんのは僕ですよ。ね。あんなに好きだつた薬が、おかげさんで止まつて。薬使つてなくて、こんな風に生きられるなつて思つていなかった。

秋庭 「今日一日を生きる」ですね。ダルクの人たちも精神障がいの人たちも、僕たちも。

切手切りや折り紙、発送の下準備、封筒づくりなど手を動かしながら、楽しくおしゃべりしながらボランティア同士が交流できるサロンです。時間内は出入り自由で申し込みは不要です。気軽にご参加ください

日時 11月7日(木)、2月7日(金)
13:30~15:00

会場 南区社会福祉協議会 2F 会議室

内容 切手切り、ウエス作成、折り紙、発送の下準備など



ボランティアサロン
“みなくる”を
開設します♡



社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会 南区社会福祉協議会
南区ボランティア・市民活動センター

〒950-1214 新潟市南区上下諏訪木817-1

TEL: 025-373-3223 FAX: 025-373-6125 ◆開所時間 8:30~17:15 月-金

◆ボランティア活動についてのご相談、ご意見などありましたら、お気軽にお問い合わせください

